



＼誰かの役に立ちたい／ 髪の毛の寄付 ヘアドネーション



寄付用カットの準備の様子。



お話をうかがった
シナバーのHIROMIさん。

(写真提供：サロン・ド・シナバー)

病気や不慮の事故、また小児がん治療の副作用などで頭髮を失った子どもたちに、寄付された髪の毛で作った医療用ウィッグを無償提供する取り組み、ヘアドネーション。たくさんの人の想いが集まり必要としている子どもたちに贈られます。

必要な髪の毛の長さは31cm。伸ばすには2～3年かかります。実際に寄付をしたことのある人は、「ウィッグを必要としている人がたくさんいることを知り寄付をしようと思った」「体力的に若い時よりできることが少なくなったので、ボランティアに参加したりするのは難しいけど、白髪でも寄付できるということを知って自分も役に立てると感じた」「なんとなく知っている程度で深く関心を持っていなかったけど、切るタイミングがなくて伸びた髪が役に立つなら、ヘアドネーションについて調べて県内で活動している団体に送った」など、そのきっかけや想いはさまざまです。

活動に賛同・協力している市内の美容室にも、身近に病気の方がいて何か自分にできることをと思い来店する人、幼稚園から3年ごとに寄付を続け今年高校生になった人など、幅広い年代の方が寄付用のカットに訪れています。中には、無償提供されたウィッグを好みの長さにするために来店する人も。「ウィッグのカットをしたときは、寄付されたものがちゃんと活用されているなって感じました」と、個室美容室 Salon de Cinnabar (サロン・ド・シナバー)のHIROMIさんはうれしそうに話します。

寄付というとお金を思い浮かべがちですが、お金以外のもので地域や社会の課題解決に取り組む活動を支援することができます。あなたにできる支援を見つけてみませんか。

ひとつのウィッグにおよそ30人分の髪の毛が必要です。

こまめな手入れが
なくても大丈夫！

年齢・性別・国籍は
問いません。



ヘアドネーションを受け付けている団体

- ・ NPO法人 Japan Hair Donation & Charity (JHD&C) (大阪市)
- ・ 株式会社テラスハートジャパン つな髪(大阪市)
- ・ NPO法人HERO(仙台市)

※団体によって、受け付けできない髪(パーマした髪など)もあるので、各団体のホームページにて詳細をご確認ください。

取材にご協力いただいた美容室

個室美容室 Salon de Cinnabar (サロン・ド・シナバー)

多賀城市中央2-10-9-2F TEL | 022-200-6270



市民発、多世代交流の場

「自分たちが住むまちのことを、自分たちで考える。」
そんな思いから「多賀城フューチャーセッション 喫茶来」は
生まれました。

「こうなったらいいな」の共有から

2024年3月にたがさぼが開催した「多賀城のまちの未来を描くフューチャーセッション」。20～80代が参加し、それぞれが考える多賀城のよいところ、気になるところを話しながら「こうなったらいいな」という未来を実現すべくアイデアを出し合いました。対話の中で参加者が感じたのが、違う世代の話を聞くおもしろさ。「世代を超えて話す機会が少ない。気軽に話し合える場があるといいな」という思いで一致しました。後日、参加者数人から「やってみよう」という声上がり、企画を進めていきました。

「参加者を増やして、多様な意見交換につなげたいな。そのために人通りが多い多賀城駅前公園を会場として使えたらいいな」「お茶を飲みながらゆっくりと話せるといいな。通りがかった人がふらっと立ち寄れるような雰囲気になるんじゃないかな」。メールでの意見交換やミーティングを数回行い、思い描く場のイメージを共有しました。イベント名は「喫茶来」と命名。公園の使用許可取り、椅子などの準備物も持ち寄り、分担しながら、5月に1回目を実現しました。

小学生から70代まで幅広い世代が集まり、それぞれの「多賀城の気になること」を話しました。人とのつながり、若者の活動、家でも学校でもない居場所など、参加者が気になることはさまざま。そこで初めて会う人同士の交流も深めました。



↑ 意見を書いたフセンを貼りだして、自分の考えや想いを共有しました。

多世代で話すおもしろさが広がる

10月に行った2回目は、通りがかった人もより参加しやすいようにと、人の往来が多い東屋に場所を変更。企画メンバー個人のSNSでの発信、チラシの配布など、事前告知にも力を入れました。また、共通の話題があった方が話しやすいのではないかと「防災って何？」というテーマを設定して実施しました。

防災と減災の違い、災害時の情報の集め方、復興と暮らしなどの話題が展開。参加者からは「自分のアイデアに賛同してくれる人とつながることができた」、また「いろいろな価値観の大人がいることを知った」「若者の知識の豊富さに驚いた」など、10～70代までと幅広く多様な人こそ、世代による違いに気づく場となりました。

世代を超えて多賀城のことを気軽に話す場「喫茶来」。回を重ねるごとに「次はこんなふうにやってみよう」という新しい案が生まれています。自分の暮らすまちがこうだったらいい、こんなふうに暮らしたい、という思いの実現に向けて一歩踏み出した企画メンバーたち。みなさんもまず自分の思いを話すところから始めませんか。話すことで情報が集まったり、協力してくれる人との出会いにつながります。喫茶来も思いを後押しするきっかけの場のひとつになっていくのではないのでしょうか。



↑ お茶を飲み、お菓子をつまみながら、和やかな雰囲気でお話をすることができました。

「tag」とは

「tag」には、多賀城(tagajo)」の頭文字3文字、みんながタグを組んで地域をつくる、多賀城に新しいタグ(価値)をつける、という意味が込められています。



ホームページ



ブログ

アンケート

誌面づくりの参考にしたいと思いますので、ぜひご協力をお願いします！



- ・自分たちの団体を取材してほしい
- ・こんな話題を取り上げてほしい
- ・ユニークな活動や地域のために頑張っている団体・人を知っている